



森林報告 第五號
草稿

服部文庫

イ 17

2173

5



117特
2173
5

五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百



橘
柚
石榴

六ノ板

八ノ板

十二ノ板

七ノ板

十四ノ板

十七ノ板

三十二ノ板

五十一ノ板

五十四ノ板

七十一ノ下

服部文庫
117
1907

草高月

内
番
寄

本局森林報告第三編ニ序列スル所ノ植物法前編既ニ之ヲ擴充
セリ次當ニ培養法列至要タル所以ヲ説テ以テ注意ニ怠ラサ
ラシトシテテ故ス培養亦相持擁護ノ常ノ而ナ其擁護
初大眼目ハ前編ニ掲出スル十一條ニテ大抵ニ其要ヲ示ス故ニ
本編專ラ培養又論ニテ保護ノ一二ヲ帶流ス

大小長短

凡天壤間ニ生ズル者有氣無氣ノ間ハ其形體ノ大小長短
養フ以テ其性ヲ遂ケサルハ其性ニ養フ以テ其性ヲ遂ケル
ス其養ヲ以テ生ズル所ノ若ク其性分ヲ遂成セザルナリ若ク其
養ヲ失フニ至テハ病弱病解シテ性ヲ遂クルヲ能ハス唯
性ヲ遂クルヲ能ハサルノミナリヤ亦養ハルニテ槁死スニ至
テシノミ是レハ其性ニ養フ以テ其性ヲ遂クルヲ能ハス
夫植物カ培養ト云フ者一木ノ至微至少雖長養ノ方ヲ与ヘテ其
至微至少者モ自ラ生ズヘキノ地ニ生ズヘキノ地ニ生ズヘキノ地ニ生ズ
ヘキノ地ニ生ズル植物天地自然ノ養ヲ得テ能ク生長發育適ラズ
不生ズヘキノ地ニ生ズル植物及ニ寒煖燥湿ノ不適アリテ其生

其是、好、大、放、
寒、者、
ノ、寒、也、
片、
冬、
宮、
ノ、
漸、
フ、
其、
者、

是山野自生ノ植物多ク人カテ之ヲ種殖スルニ至テは最モ
ヲ害スルナシ
寒燥燥湿ノ道ヲ候シヨクシテ保種セザルハカラス
然リト雖亦死アリ其生スルキ種ニ生ズルヲ待テ起トシヨク用ヒカ
ル片ハ時アリテ大旱霪雨ニ因テ其生多ク遂ケサルモノアリ其生スル
カナルノ地ニ生セサルニ安シテ之ヲ放棄スル片ハ材用繁殖ノ道ヲ
致スル種亦候ニ空乏ノ患ヲ胎サシ故ニ人アリテ之ヲ拮据ス
之ヲ保種之ニ申ヌルニ誠実勉強ヲ以テスル片ハ
湿地ニモ燥ヲ加フヘク埴土モ壤ナラシムヘク
一シ之ヲ培養ト云フ
皮核養ルノ植物ニ多ク前ニ云フ所ノ如ク決シテ之ヲ懈ル
ヘカナルモノトス然レバノ穀草ノ類ハ本局ノ旨スル所ニ
最モ講究シテ

アヲケレハ惟

惟

就テ其利害ヲ説セトス

養々ノ物性ヲ生成スル所以ヲ大別シテ二トス一ハ天地自然ノ
養々ニ人カノ培養天地自然ノ養々ト曰大陽曰地曰白
水曰風曰雨曰霜曰雪以テ温熱潤湿ヲ成シ之室素酸素
ヲ作用シテ又其物ニ各種ノ作用カヲ具ヘ
根ハ山物質ヲ取テ
葉ハ空素ヲ取テ
スルノ以テ其生成ヲ遂ケモ是レ天地自然ノ養々ノ大ナル者ニ
故ニ太陽光照射シテ温熱ヲ与ヘ水湿流融シテ温潤ヲ与ヘ風
鼓動シテ滯氣ヲ疏通スル以テ水湿ノ不足ヲ補フ
硝氣ヲ發作スル雪ノ諸害ヲ驅除スル等皆自然ノ養
分ヲ配賦スル地質ニ至テ最モ其大ナル者ト云夫大原

其是、好、大、放、
寒、者、
ノ、寒、也、
片、
冬、
宮、
ノ、
漸、
フ、
其、
者、

素十ル者モ皆地ニ因テ用セシ者ナシ

四原素トハ一ニ酸素ニ三窒素三ニ加年度母 利其年度母

四三牌

作用

又其根幹枝葉各自ニ養成、切ラズ亦犹人體四肢百骸
脈絡關節各其切用ヲ以テ自ラ養フ所アルカ如シ

又己レノ廢棄物ヲ以テ自ラ養フ者アリ落葉是ナリ深山遠

谷ニ在テ腐爛シタル森林落葉堆モスルヲモスル隨テ隨テ腐敗

シ其堆キ遂ニ壤土ヲナス其本根ヲ肥養スル尋常番草

ニ比スレハ一草ヲ加フモノトス故ニ前節植護法ニ於テモ既ニ已ニ

之ヲ明言セシ凡此類也

是ニ天地自然ノ養分アリテ物性ヲ生成ス所以ノ大畧ナリ

如是ナルノ故ヲ以テ深山窮谷ニ生長スル樹木、各ニ其

性ニ隨テ生ズキ地ニ生モ生ズキカラサル地ニ生セズ其

生ズキ地ニ生ズキ故ニ人力ノ培養ヲ俟タズ能ク喬

大ヲ致シシ其得テ撐テ至シ遂ニ大小山林ヲ成ス試ニ

看ヨ全國有名ノ山林喬木良材ノ皆、森ニタル誰カ之

ヲ種植セシヤ誰カ之ヲ培養セシヤ豈人為ヲ待テ之成ニ

セシニ非ルヤトシテ明ナリ是レ皆天然ノ養分有テ

其生成ヲ遂ケシムル者ナリ

或云フ地理ノ各所主トシテ山林ニ在リ而シテ其用ヲ

論スルモ有用木材ニ在リ若シ山林ノ樹木ハ天然ニ生シ天然

長シ天然ノ養ヲ得テ足ルト云ハ、則^{人爲}培養方ノ如キ講究セサルモ害ナケント是レ惟^其一ヲ知テ他ニ推及シ能ハサルモノナリ彼深山窟岩ニ生長スル者ハ固ヨリ既ニ上ニ云フ所如シ然レモ全國ノ森林國家ノ用ヲ為ス者豈特深山窟岩ニ生ズル喬木巨材ヲ仰クノミナラズヤ^{山岡}薪炭^{薪炭}用^{薪炭}行^{薪炭}也^{薪炭}ナ^{薪炭}ハ^{薪炭}民^民生^生計^計ノ用ト供セサルナシ而シテ^{日本}全國^{日本}ヲ量ルニ山林ノ區域十ノ七ニ居ル其七ノ中ニ就^テ深山窟谷ナル者ヲ半ト積^積ル^積ハ^積則^則个^个カ^カラ^ラズ^ズ在^在ル^ル者^者殆^殆ト^ト全^全國^國ニ^ニ一^一ニ^ニ居^居ル^ル丘陵^{丘陵}原^原濕^濕ノ^ノ森林^{森林}人^人カ^カラ^ラ假^假固^固ヨリ論^論フ^フ後^後々^々ス^ス山^山岡^岡峯^峯岳^岳ト^ト雖^雖亦^亦能^能ク^ク人^人カ^カラ^ラ以^以テ^テ種^種植^植シ^シ培^培養^養シ^シテ^テ以^以テ^テ牛^牛山^山ノ^ノ美^美ヲ^ヲナ^ナス^スキ^キモ^モノ^ノ多^多ク^ク是^是

嚴戒ス

レ天然ノ養ニ付モテ怡トシテ省ミサルヲ得^得ル^ル所^所以^以ナリ況^況ヤ^ヤ深山^{深山}窟^窟谷^谷ニ^ニアル^ル者^者モ^モ亦^亦人^人カ^カラ^ラ以^以テ^テ之^之ヲ^ヲ保^保護^護セ^セル^ルハ^ハカ^カラ^ラサル^ル所^所以^以ナリ^{ナリ}培養^{培養}ノ^ノ溝^溝究^究セ^セサル^ルハ^ハカ^カラ^ラサル^ル所^所以^以ナリ^{ナリ}現今^{現今}海^海内^内山^山林^林荒^荒蕪^蕪ス^スル^ルヤ^ヤ今^今日^日ニ^ニ在^在テ^テハ^ハ最^最宜^宜ク^ク現^現存^存ノ^ノ山^山林^林保^保護^護シ^シテ^テ將^將來^來着^着手^手ス^スル^ル山^山林^林ノ^ノ繁^繁茂^茂ヲ^ヲ待^待テ^テハ^ハカ^カラ^ラサル^ル事^事ハ^ハ既^既ニ^ニ前^前論^論ニ^ニ云^云フ^フ所^所如^如シ^シ良^良材^材巨^巨木^木ノ^ノ世^世用^用ヲ^ヲ為^為ス^ス率^率々^々百^百年^年以上^{以上}ノ^ノ者^者ニ^ニア^アラ^ラサ^サレ^レハ^ハ棟^棟梁^梁ノ^ノ用^用ヲ^ヲ知^知ス^ステ^テア^アタ^タハ^ハス^ス而^而シ^シテ^テ全^全國^國日^日常^常欠^欠ク^クヘ^ヘカ^カラ^ラサル^ル營^營繕^繕ニ^ニ於^於テ^テ需^需用^用ス^スル^ル所^所ノ^ノ者^者其^其数^数千^千万^万ナ^ナリ^リ知^知ラ^ラズ^ズ朝^朝ニ^ニ一^一林^林ヲ^ヲ伐^伐ス^スシ^シタ^タニ^ニ一^一林^林ヲ^ヲ伐^伐ス^ス大^大假^假令^令年^年伐^伐テ^テ斷^斷テ^テ植^植ル^ルモ^モ百^百年^年ノ^ノ久^久シ^シキ^キヲ^ヲ迄^迄ル^ルニ^ニア^アラ^ラサ^サレ^レハ^ハ復^復用^用ヲ^ヲ為^為ス^ステ^テア^アタ^タハ^ハス^ス況^況ヤ^ヤ

タヒ伐テ種植ヲ務メサルハ全米ノ巨木良材方ニ將ニ凡尺ニセシ
トス是レ國家ノ大患最モ之ヲ患スルハカラス

夫一才ノ苗冬ノ天ニ至リ雨葉ノ散蔽牛ノ大ヲ為ス故ニ人カト

虽亦以巨木良材ヲ造作ノ事ニ律也律也相成ノ法ニ次ニテ

今甲乙相違テ茶畑ヲ有テ種茶ノ時ニ育シテ茶葉ノ法ニ相違ニ而シテ甲ノ上葉ヲ得テ多ク乙ノ得
信義ノ元カノナリ又南ノ南洋諸島ニ産スル蒲葦草ニ自然ニ結ケテ蒲葦草ニテ是レ甲ノ時葉草ヲ得テ乙ノ時
農務ノ家講ムル所也

一 動物ヨリ資ル所者十二

上ニ動物毛羽土骨角殼

一 植物造釀ヨリ資ル所者十二種

糖ハ諸穀籾九油糟十酒糟十二由酒ノ之葉十一種ノ他種

四人畜二人羽三馬牛畜四馬牛羽五各葉
六穀籾七穀肉八魚貝肉九乾魚十魚油

一諸穀二諸苗三既肥四草
肥五青草六草木灰七米麥

一 土石ヨリ資ル所者十二

石灰十溝泥土一河砂十二客土

右ノ三十六種ヲ以テ之ヲ調和之ヲ腐爛生長流水雨水ヲ加ヘテ其

性ノ猛烈ナル者ヲ和ラケ或ハ多ク精煉シ之ヲ腐爛テ其體ニ

含有スル所ヲ取ル等ニ至テハ凡ソ其用ハ土地ノ燥湿ヲ相

シ時候ノ寒暄ヲ察シテ之ヲ糞培スル中ハ凡百ノ草木其

生成ヲ遂ケサルナリ詳ニ培長秘録等
農家ノ書ニ載ス故ニ此ニ贅セズ

糞ニ執テ糞ヤリ宿者ヤリノ濃糞ヤリノ輕糞ヤリノ執糞ニ

多ク草木ヲ害スルナリ惟寒中ノ此
患ヤシトス

培養ノ草木ニ於ルヤ猶人ノ飲食ヲ需テ生長スルカ如シ飲

是亦燒テ
客ニテ亦
十ナリ
所ニテ
信義ニ
如シ肥養
ノ植物堅
事此如

食園より人ヲ生活ス然レ度ヲ過ル中却テ疾ヲ生ス培
養亦猶此如シ故ニ其度ニ過ルニ至ルニ至リ肥糞ノ性亦

其性能植物ヲ養フ猶糞割ノ人ノ疾病ヲ瘡スア如シ葉ニ極寒ニ過

平寛和種ノ性アリ肥糞ニモ亦之アリ故ニ樹木ノ寒

ヲ畏ル者ニ熱物ヲ与ヘ熱ヲ畏ル者ニ冷物ヲ与フ温地ニ

人糞ハ身上ノ肥培ナル故ニ其性ニ相違ナリ然レ度熱糞ヲ用

エル中ハ效ヤクシテ却テ或ハ之ヲ害スルヲアリ或ハ寒中ニハ大害ヲナスト云フ

之ヲ辨以シテ宿糞トナス中ハ其効能他糞ノ及フ所ニ

アラズ宿糞ト雖亦單ニ之ヲ用アル中ハ猶猛烈ナリトス故

ニ調和シテ用ルヲ可トス凡ソ肥糞亦皆此ノ如シ春西堆糞ヲ受テ亦此意ナリ

一 惟植物ニ適テ冷熱物ヲ与ルニミテラス地ニ至テモ亦此法ヲ以テス燥地ニ滋潤物ヲ以テモ湿地ニ乾物ヲ以テシ粘土ノ地ニ塵彫ノ墟ニテ以テモ輕軟ノ地ニ以テテも物ヲ以テテ其缺質ノ不足ヲ補フ中ハ地味モ亦極難ク以テ其性質ヲ変化セシム

大抵樹木ニ培養スルハ獸肉水ヲ可ナリトス其効能量
ルヘカラサル者アリ改州培養法亦多ク之ヲ用ユ

木ニ人糞ヲ忌ム者アリ松ノ類是ナリ他材如キモ之ヲ用テ者

ニ過ソル中ハ虫ヲ生ス極難

雜苗ヲ仕三ントスルニ先其土麻カ燥湿ト寒暖トヲ察シ

何木ノ適スヘキヤ否ヲ吟味時候ヲ辨先其地ヲ耕耙シ種ント

欲スル木ニ適スル肥養ヲ施シ又時候ヲ以テ下種スル中ハ

百活セサル者少ナシ是ヲ最上ノ下種法ト云松柏ノ類此法ヲ用アルヲめトス

苗生スルノ後ニ至テハ最肥糞ノ多寡ヲ灌漑ノ疏數

其漸長スニ及テ
良節友ヲ匿テ
ト居シメテ
ラス其生ヲ待
セシム

芽ニ注意モ細心ニ之ヲ保護スルニ稚苗ヲ保護スルノ
法小兒ヲ保護スルカ如シ小兒ハ乳哺飲食ヲ待テ生長
ス然レモ之ニ飲食ヲ与ルテ多キハ疾病ニトコロニ至
ル飲食ヲ与ルテ足ラサルハ羸弱ニシテ生長ヲ害スル
節シテ其度ヲ得セシムルハ保母ノ注意ニマリ稚苗モ亦肥
蓋ヲ待テ生長ス而シテ其度ヲ得サルハ矮曲ニシテ生長
ニ害アリ一クニ虫害ヲ受ルハ終ニ生成ヲ遂クルコト能ハ
ルニ至ル故ニ蝨ク之ヲ培養シ蝨ク之ヲ保護モ其苗ノ
漸長スルニ及テハ寒ニシ畏ルハ昔ハ風霜ヲ防カシモ暑ヲ
畏ル者ハ藪日ヲ遮蔽ス柱ヲ植テ風ヲ折シ雨ヲ防シ

ケルニ其生成ヲ遂ケシム

兼テ以暴風ヲ折傷ヲ避々此ノ如クニシテ始テ善ク培養
スル者ト謂フベシ

○農家ノ法大畧此ノ如シ然レモ其之ヲ用ルノ法筆端口吻
説明スヘカラス必ク細心ニ其性ヲ詳ニシ其実効ヲ
試シ各自之ヲ心得ル土ノ形質ト氣候ノ寒熱トヲ
察シテ之ヲ施スニアラサレハ未ク其妙ヲ及ニスニ至ラザルモ
况ヤ各地ノ方ニ於テ亦習慣ナルモノアリ其教百年来
ヲ歴テ試シタル所ニ豈輕易ニ談スヘケンヤ今報告スル所專
ニ本邦ノ逐年繁殖ノ法ヲ考テ其栽培ノ講究ニ在
リ

草書用

内務省

ナリ

草木類

土

活物羽毛

人髮 雞毛

三

骨角殼

骨殼及 泰西人專之角子

用廿九

諸穀

大豆肥 豆肥 紅豆肥

二

諸苗

三

厩肥

芝肥

草肥

埋肥

青草

腐肥

六

草木灰

七

米麥糠

八

諸穀

土石類
一
泰西人說礦物類
了凡者皆能培養
一質之具了上者

九

油糟

油糟水

芥子油糟投虫

十

酒糟

酒糟肥

十一

醬油糟

十二

海河底

用七一

十三

屋上煤

炭焰硝 精焰硝

十四

塵埃

十五

灰日泥

十六

焰硝海塩

十七

硫礬

草高目

內務省

七 八 九 十 十一 十二

紅土

礮灰

石_行土

溝河泥

河砂

客土

草

礮灰

厨下水

魚洗水

米泔水

浴湯水

用

草

內
務
首

